

令和5年度 第1回 笛吹市総合教育会議 議事報告

開催日時：令和5年12月20日（水） 午後1時15分 開会

開催場所：笛吹市役所市民窓口館 3階 302会議室

出席者：

構成員

役職	氏名
笛吹市長	山下 政樹
教育長	望月 栄一
教育委員	飯田 多恵子
教育委員	内田 淳
教育委員	久保田 一男
教育委員	高野 仁美
教育委員	中島 知晴

総合政策部

役職	氏名
総合政策部長	返田 典雄
政策課長	小澤 宏之
政策課課長補佐	樋川 幸一
政策課主査	渡邊 健次

教育委員会

役職	氏名
教育部長	太田 孝生
教育総務課長	手塚 克己
教育総務課主幹	田中 政人
学校教育課長	久保田 雄
学校教育課主幹	黒澤 宏至
学校教育課主幹	日原 博人
生涯学習課長	荻原 昭
文化財課長	望月 和幸
図書館長	吉岡 浩
石和図書館主幹	小沢 恵子

【進行：政策課長】

1 開会

2 市長あいさつ

本日は御多忙の中、笛吹市総合教育会議に出席いただき、感謝申し上げます。

総合教育会議は、市長部局と教育委員会とで意思疎通を図り、相互の連携をもって、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、全ての自治体に設置が義務付けられた会議である。

これまでも市長部局と教育委員会とが一致協力し、様々な教育課題に取り組んできたが、時代や社会環境の変化によって新たな課題等も発生する中、教育委員会との連携を更に深めていく必要があると考えている。

本日は、限られた時間ではあるが、忌憚のない意見をいただきたい。

3 協議・調整事項

(1) 笛吹市教育大綱(案)について (政策課・教育総務課)

【説明】

教育総務課長

【意見交換】

(教育長)

市長には、日頃から教育に深い理解と配慮をいただき、子どもの学びを保障するため、物的にも人的にも力強く政策を推進してもらっており、感謝している。

現行の大綱には基本理念の記載はなかったとのことだが、教育大綱は本市の教育行政の根幹となる方針等を定めるものであることを踏まえると、案にあるとおり基本理念は記載すべきだと思う。また、その基本理念を第二次笛吹市総合計画の教育分野に係る施策名を引用し「人と文化を育むまちづくり」としている点も、分かりやすく良い。

一般的に文化というと、学問や芸術を指す言葉であるが、スポーツ基本法には、スポーツも世界共通の文化であるとの記載がある。この基本理念の下、スポーツを含め、教育政策を進めていきたいと考えている。

(市長)

大綱案の取組方針の中にも記載があるとおり、今後、中学校部活動の地域移行に向け、環境整備等を進めていく必要がある。

(久保田委員)

スポーツに関連して意見を述べる。本市は、令和5年9月に開催された「第76回山梨県体育祭り」において、市の部で初の総合優勝を飾った。この快挙を一時的なものとしないうちに、競技者をどう育てていくのかが課題となる。良い競技者を出すためには、各競技団体などがしっかり運営されていることが必要であり、

そういった部分も大切にしながら、スポーツ活動の推進に努めていってほしい。

(中島委員)

部活動の地域移行については、費用の面でも移動手段の面でも、保護者の負担が増えることが予想される。家庭環境によっては、学校が終わったら部活動に参加するという、これまで当たり前だったことができなくなる生徒も出てしまうかもしれない。

教員の負担軽減を図ることはもちろん大事なことだが、同時に、弱い立場にある生徒が、これまでと同じように部活動に参加できる環境をしっかりと整えてほしい。

(高野委員)

指導者の確保など、受け入れる側の体制もしっかり整える必要がある。また、中島委員から話があったように、子どもたちに不公平感が生じないようにしてほしい。子どもたちのやりたいことを支えることが、我々大人の役割である。

(内田委員)

指導者の確保については、最も心配している点である。教師や保護者との関わりが複雑になることが予想される。また、大会の引率や部活動中の怪我に対する責任問題など、懸念される点はいくつもある。そういったことを考えると、指導者の負担はとても大きい。それでは担い手になってくれる人がいないのではないか。指導者にとっても充実感や達成感を味わえるようなものになってほしい。例えば、指導している子どもたちの成長していく姿をみることや、その子どもたちや保護者から感謝された時に、やりがいを感じると思う。

また、部活動に参加する生徒には、上を目指したい人や、楽しく参加できれば良い人など、生徒や保護者によって考え方は異なる。この部活動はどこを目指して活動していくのか、といった活動の方向性を示していく必要もある。

(飯田職務代理者)

基本理念を「人と文化を育むまちづくり」としており、私としても嬉しく思う。現在、文化は生涯学習課が、芸術は文化財課が所管するなど、分野ごとに担当課が分かれているが、この基本理念の下、総合的に取り組んでいってほしい。

また、個人的な感想になってしまうが、山蘆に来た子どもたちは、目を輝かせながら自然を見たり、句を発表したりしている。その姿を見ると、心豊かに子どもを育てていくことが教育の根本であると実感している。

(久保田委員)

先日、世界農業遺産に認定されている静岡県のわさび田に視察に行ってきた。本市も峡東地域の果樹農業システムが世界農業遺産に認定されていることから、これを教育施策に展開することも良いのではないか。

大綱案の基本目標 7 に「豊かな心と郷土愛を育む芸術文化の振興」とあるが、例えばここに世界農業遺産に関連する文言を加えることもなども良いと思った。今後の参考にしてほしい。

(教育長)

皆様から御指摘をいただいたとおり、地域移行に向けては、指導者や費用のことなど、様々な課題がある。この件については、検討委員会を立ち上げて、議論を進めていく。

今後、定例教育委員会の場などでも、御意見をいただきたい。

(市長)

様々な御意見をいただき感謝する。これらの意見を参考に、大綱の策定に向け、取り組んでいく。基本的には原案の内容について、了承いただけたということによろしいか。

(各委員)

異議なし。

(2) 子どもの読書活動について(図書館)

【説明】

図書館長

【意見交換】

(中島委員)

自身の体験談を踏まえていくつか意見を述べる。

私は妊娠中から図書館に通っていた。図書館は、本を楽しむことはもちろん、子育て家庭に困りごとがないか聞いてくれるような場所で、小さい子どもが泣き叫んでも、しっかり受け入れてくれる環境がある。このように、笛吹市には妊婦や子ども連れでも、図書館に親しめる環境が整っていると思う。

私の子どもは小さい頃から図書館に通っており、その甲斐あって、読書習慣が身に付いた。妊婦の時から、保健師や司書を通じて、読書の大切さを伝えていくことが大事だと実感している。

読書することで、本を通じて、他人の意見や違う世界を知ることができる。これは誰にとっても優しい社会につながっていくものだと思う。市は、読書活動の推進にぜひ力を入れて取り組んでほしい。

また、以前学校の司書から、授業内容等が増えたことによって、学校の朝の読書時間が取れなくなってしまったということを知った。授業内容が増えることも大事だが、それを理由に読書の時間を減らすことは避けてもらいたい。

読み聞かせに関しては、知らない人が読み聞かせをしてくれた本や好きな先生が紹介してくれた本などは、いつまでも子どもたちの印象に残っている。読み聞

かせの機会を減らさずに、子どもたちの読書習慣につなげていってほしい。

(内田委員)

学校の司書が果たす役割はとても大きい。市には、市単独の司書を学校に配置してもらっており、感謝している。予算の関係もあると思うが、引き続き、読書活動の推進に向け、取り組んでほしい。

(高野委員)

自身の子育て期はちょうど多忙な時期であり、子どもにあまり読み聞かせができなかったため、今では後悔している。

(久保田委員)

先ほど、学校の朝読書の話も出たが、朝読書は読書するという目的のほかに、始業前に子どもたちに落ち着いた雰囲気をつくるという狙いもある。朝読書の時間が減っているという話を聞き、残念である。読書が与える効果を踏まえながら、考えてみる必要があると思った。

(飯田職務代理者)

私は子育て期に東京都に転勤になったことがある。近くに友人などがいない中、近所の図書館に行き、そこで友人ができた。図書館はそういった場所でもあると思う。

自身の子どもにも読み聞かせをしていたが、子どもは今でも読み聞かせた本を覚えており、家にある絵本などを見て、懐かしがることもある。そういった面を踏まえても、読み聞かせしてきてよかったと感じている。

読み聞かせや読書は、インターネットなどから得られる情報とは違い、心豊かな教育につながっていると思う。

何点か質問がある。資料5ページ目において、「学校で本を読む時間はいつですか」という質問に対して、朝の活動時間に次いで、図書室利用時間が多いとの記載があるが、図書室利用時間とはどういう時間を指しているのか。

(学校教育課長)

市内の小学校では、定期的に国語の授業の中で図書館の時間を取っており、そこで読書をしたり、調べ学習をしたりしており、そのような時間のことを指している。

(飯田職務代理者)

国語の授業の中に図書館を利用する時間が組み込まれているということは、とても良いことだと思う。

資料7ページ目において、「読み聞かせをしてもらってどう思いますか」という質問に対して、「今くらいがちょうどいい」が最も多い回答だったとの記載が

あるが、今ぐらいとはどの程度の頻度なのか。

(学校教育課長)

学校や発達年齢によって時間に違いがあるため、明確な回答はできない。

学校によっては、担任の先生の読みきかせだけでなく、地域の人に来ていただいて読み聞かせを行っているところもある。

(飯田職務代理者)

10 ページ目のアンケート調査の考察において、本を読まない家庭が増加傾向にある理由を、読み聞かせ活動が保護者に十分伝わっていないことが考えられるとしている。図書館を訪れる子どもや保護者は、本に興味があるから来館するのであって、普段、図書館に行かない子どもや保護者が、どうしたら図書に興味を持ってもらえるかを考えることが、一番大事なことだと思う。図書に触れる機会が最もあるのは学校である。そういったことも含める中で、多くの子どもたちが図書に興味を持てるよう、今後、我々も一緒になって考えていきたい。

(教育長)

読書好きな子どもをどのように育てていくのか、どのように読書習慣をつけていくのかが大事である。学校によっては、保護者が読み聞かせサークルを作り、学校に読み聞かせに来てくれたり、教師や図書委員がそれぞれのクラスで読み聞かせに行くといった取組をしている。今後、学校とも連携しながら、取組を進めていく。

(市長)

多岐に渡り、御意見をいただき感謝する。話を聞き、改めて読書の大切さを認識した。読書に親しむためには、図書に触れてもらい、楽しんでもらうことが重要で、そのための環境を作っていく必要があると思っている。皆様からの御意見を参考に、今後も読書活動の推進に取り組んでいきたい。

4 その他

特になし

5 閉会

午後 2 時 40 分 閉会